**2006年度夏学期　法１　早川眞一郎**

2006年7月26日　1時限　９０分
解答用紙：両面１枚　計算用紙：なし　持ち込み不可

次の第１問・第２問の双方に答えること（回答の順序は、自由でよい）。

第１問　次の(a)〜(d)のうちから、１つを選んで答えなさい。

(a)日本の刑事司法の特色と課題について、論じてください。

(b)裁判員制度の概要を説明したうえで、この制度を導入することについて意見を述べてください（賛否いずれの立場に立ってもよいが、意見の理 由をわかりやすく示すこと）。

(c)弁護士という職業の現状と理想像について、授業中にとりあげた三ケ月章の論文（「現代の法律家の職能と問題点————弁護士」）及び大野正男 のエッセイ（「楕円の論理————弁護士と依頼者の間————」）に適宜言及しながら、論じてください。

(d)明治時代から今日まで日本の司法制度が外国の司法制度からどのような影響を受けているかについて、論じてください。

第２問　次の設問を読んで、（１）〜（２）の双方に答えなさい。

（１）物権と債権の違い、およびこの両者の関係について説明してください。

（２）　Ａは、友人Ｂと歓談しているときに、冗談のつもりで、Ａが持っている高級腕時計を１０００円で売ってあげようと言った。これを受けて、 Ｂは、買うと言った。
　このときＡＢ間にはその時計を１０００円で売買する契約は有効に成立したといえるか？必要に応じて場合分けをし、民法上の根拠を示して、説明してください。

以上